

はじめに

- この冊子が生まれてきたストーリー -

「災害支援に対して持続可能な支援がしたい！」

子どもたちのそんな声がきっかけとなり本冊子の前作となる「ほっとステーション富田つながり BOOK」が生まれることとなりました。

大阪府高槻市富田地区では、2018年6月18日に起こった大阪北部地震の影響により地震当日に高槻市営住宅19棟のうち2棟が倒壊の危機があると判断され、全戸避難となりました。

このまちでは発災当日から当法人を中心に多セクターや住民ボランティアとの協働により公的避難所への食品の運搬や避難者への昼食・夕食支援・心のケア・引っ越し支援などの災害支援に奔走してきました。これらの取り組みをはじめ他方面において行われていた災害支援の取り組みに連動する形で高槻市立富田小学校5年生総合的な学習の時間「いまとみらい - ほっと Station 富田」の取り組みが始まりました。

この取り組みでは、子どもたち自らが地域の災害支援から学びを進める中で「まちの温度計を上げる」ためにできることを考えました。その中で持続可能な支援がしたいという思いに至り、その子どもたちの思いを地域が受け止める形で学校・地域の協働により前作をまとめました。おかげさまで冊子はチャリティグッズ化し市内外他府県で購入いただき、得られた収益はすべて災害支援の取り組みに大切に使用させていただいています。

その後、高槻市長の3期目の施政方針において市営住宅の全面建て替え方針が出されました。地震の被害を受けすでに取り壊しとなった市営住宅2棟以外の17棟も完成後半世紀以上を経過しており、「一刻も早く安全な場所で住みたい。」という住民の切実な思いがあります。そのような思いに突き動かされる形で当法人が中心となり長期的なコミュニティ再生事業を構想、多セクターとの協働により「未来にわたり住み続けたい町」を創り始めています。

今作はそのコミュニティ再生事業に連動する形で始まった富田小学校4年生「マイタウンミーティング」の取り組みをまとめる形で作成することとなりました。この冊子の1部では取り組みにおいて子どもたちが将来にわたって住み続けたい町の姿を描いていく過程を富田小学校の協力を得てまちの提案書としてまとめました。第2部では大阪大学大学院人間科学研究科志水宏吉先生をはじめ大学院生の協力を得て、まちに対する子どもから高齢者など様々な声をまとめました。

これまでもこの地域では、公教育と地域との協働の中で「子どもたちが社会を変えていく力を持っている」ということを強く感じてきました。

この冊子を通じて子どもたちが社会を変えていく可能性を感じて頂ければと願っています。

また、ここで得られる収益がコミュニティ再生事業の財源として災害後、いまだ老朽化した市営住宅で不安を感じながら住み続けている住民の力になればと願っています。

一般社団法人タウンスペース WAKWAK
業務執行理事兼事務局長 岡本工介